

放送研究会

本物の放送局で番組を制作・放送できる魅力

放送研究会よりもMegaphone (メガフォーン)と云った方が知名度が高いかもしれません。正式名称は徳島県内4大学(徳島大学、文理大学、四国大学、鳴門教育大学)合同放送サークル「メガフォーン」ですが、30名ほどの部員の内20名以上が徳大生です。

後輩へと伝えられています。「放送関係の仕事をめざす人には即戦力が身に付きます。遊び感覚で楽しんでる人もいます」と語る部長の川端さんは主にディレクターを担当してきました。昔からラジオが好きで、本物の放送局で番組を制作できるというところが、入部。将来は放送局や制作会社への就職を希望しています。

なんと「FM徳島」(株式会社エフエム徳島)で番組を制作して放送できるという恵まれた活動が魅力のサークルです。しかも番組は「大学生でいこう」(毎週金曜 pm20:55)と「フルーティキッズ」(毎週土曜 pm22:55)のレギュラー二本。

最近、ネットラジオとして「大学生で行こう」と、サークルの活動状況などの映像の配信も始めました。

「大学生で…」は大学生の目線で見た日常生活を、「フルーティ…」は最近の大学生の恋愛事情をテーマに、パーソナリティが一人でトークします。収録は毎週水曜日、FM徳島内での機材を使い、ディレクターからパーソナリティまで、全て自分たちの手で制作。機材の操作方法は先輩から

放送研究会は、大学祭ではFM電波を使って学内のみで受信できるミニ放送局を開局。また他のサークルの演奏会などのアナウンサーを依頼されたり、昨年は日本テレビの「24時間テレビ」のメインイベントの司会もつとめるなど大活躍。

活動はこの他に、毎週土曜日の企画会議、8月の小豆島での合宿や阿波踊り。テストが終わった開放感を味わう(?)水っぽう大会など多彩。合宿では新入生が二人組で自由に番組を作り、みんなで評価します。みんなの思いがけない一面が見えたりするのが楽しいそうです。

部活は水曜(pm6:00)と土曜(

pm3:30)に第三島体育館2Fで行っています。入部希望者や放送に興味がある人は気軽にのぞいてみてください。



工学部機械工学科2年 川端 剛史 かわばた つよし



平成17年度に係わる業務の実績に関する評価結果概要

理事・副学長「総務担当」 黒田 泰弘 くろた やすひろ

はじめに

平成18年9月29日に国立大学法人評価委員会による国立大学法人徳島大学の平成17年度に係る業務の実績に関する評価結果が発表されました。全体評価では、本学は、他の国立大学法人にない分野を持ち、学術研究論文数からみても優位性を持ち、競争的資金獲得にも熱心で、徳島大学のブランドを高めていると高く評価されました。項目別評価では、「I」業務運営・財務内容等の状況の4項目は、いずれも「中期目標・

中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価されましたが、「…が期待される」との表現で対応しなければならぬ事項が4つ指摘されました。また、南海地震発生時初動マニュアル(学生用)や非常時における全学生の安全確認を実施することを想定した名簿を作成し、配布していることが特色ある主な例に取り上げられました。「II」教育研究等の質の向上の状況では、本学が取り組んでいる注目される事項が取り上げられています。ここでは評価結果の概要を報告します。詳細は本学のホームページをご覧ください。

徳島大学のブランドを高めている。 ● 役員会を毎週開催し懸案事項を迅速処理するとともに、部局長会議を月1回開催し意見をポトムアップするなど、法人の円滑な運営を進めるための取組が機能している。 ● 事務局企画・評価課では、評価情報分析センター設置や組織評価実施概要の企画立案が実施され、病院の企画経営課では増収対策の策定や診療科毎の稼働目標額を示し、病院長ヒアリングが実施されるなど、改革が推進されている。今後の成果が期待される。

内容の改善を図っている。地域・国際交流プラザが完成するなど資産増になっている。 ● 高等学校での未修得科目を「大学入門科目群」として履修させるなど、教養教育の充実が図られている。FD学習支援室の取組、地域共同研究センターその他の施設の拡大、医療系での新しい取組、部局横断プロジェクト体制等、新しい試みが行われている。

● 危機管理に関しては、全学的・総合的な危機管理体制の確立が期待される。 ● 「II」教育研究等の質の向上の状況では、全学共通教育で新しいカリキュラムが実施されているなど16項目が「注目される」と評価されました。

おわりに

教員、事務職員の皆様のご支援、ご協力によって平成17年度に係る業務の実績に関する評価結果を得ることができました。心より感謝いたしますとともに今後ともよろしく願っています。

全体評価

● 徳島大学は、他の国立大学法人にない分野を持ち、学術研究論文数からみても優位性を持ち、競争的資金獲得にも熱心で、

● 平成16年度の評価委員会の評価結果を踏まえ、自己点検・評価の公表方法について評価結果公表要領を定め、ウェブサイトに点検・評価結果専用ページを設けた。 ● 部・課の再編及び定員削減を実施したほか、業務改善提案制度を導入し、優れた提案には報奨も行って推進している。 ● 貸付施設について見直しを行い、外部への許可範囲を広げるなど財務

「I」業務運営・財務内容等の状況は、全て「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価されましたが、下記の4事項が指摘されました。 ● 会議の実質化に向け、監事の指摘事項への早急な対応が期待される。 ● 今後、着実に人件費削減の取組を行うことが期待される。 ● 評価システムの整備、処遇面への反映等、早急に取り組むことが期待